

等差数列の第 n 項を a_n とすると次の公式が成り立つ。

$$a_n = \text{初項} + (n - 1) \times \text{公差}$$

または、初項は a_1 、公差は d という記号で書かれるので、

$$a_n = a_1 + (n - 1) \times d$$

と書くこともある。

7 次の等差数列の初項 a_1 を求めなさい。

(1) 公差が 5 で、第 6 項が 29

(2) 公差が 3 で、第 9 項が 23

6 次の等差数列の公差 d を求めなさい。

(1) 初項が 8 で、第 9 項が 32

(2) 初項が -12 で、第 11 項が 38

(3) 公差が -6 で、第 8 項が -34

(4) 公差が -4 で、第 8 項が -51

(3) 初項が 2 で、第 15 項が -54

(4) 初項が 25 で、第 6 項が -20